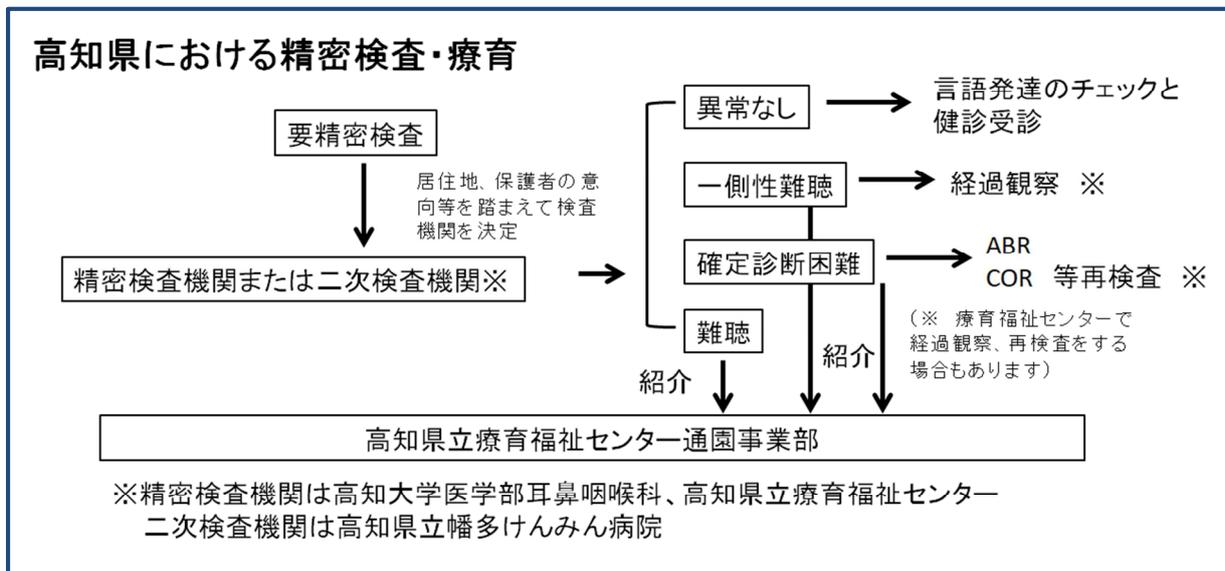




《高知県における精密検査・療育》

- ・ 新生児聴覚検査の精密検査及び以降の流れは以下のようになっています。



- ・ 難聴に対する療育は、言語（音声言語、手話を問わず）を習得するために行われます。
 - ・ 精密検査の方法の詳細や、療育の実際、難聴児の生活などについては、専門的な内容となることや、個別のケースによってさまざまであるため、このマニュアルには記載していません。
- ※詳細については、以下を参照ください。

●精密検査機関及び二次聴力検査機関について

精密検査医療機関

高知大学医学部附属病院（耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

<http://www.kochi-u.ac.jp/kms/hsptl/medical/department/oto-rhinolaryngology.html>

高知県立療育福祉センター（医療部耳鼻いんこう科）

<http://www.pref.kochi.lg.jp/doc/2017050100237/>

二次検査機関

高知県立幡多けんみん病院（耳鼻咽喉科）

<https://www.pref.kochi.lg.jp/hata/shinryoka/shinryouka-jibiinkou.html>

●難聴児の療育機関について

- ・ 高知県立療育福祉センター 通園事業部 難聴児通所支援「ポニー」

<https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/ryouikuhukusi-tsuen-ponii/>

●教育機関（相談学級、幼稚部～高等部）

- ・ 高知県立高知ろう学校

<http://www.kochinet.ed.jp/ro-s/>

●難聴児の療育・教育について（参考資料）

- ・全国早期支援研究協議会の出版物

参照 <https://nanchosien.blog/published-matererrial/>

1. 『きこえない！』でも、大丈夫 ―疑問と悩みにこたえる Q&A60―
（旧「新・『お子さんの耳がきこえない』と言われたら」）
（主に高度難聴：診断された時に、保護者に対して必要な情報が書かれています）
2. 「新版・きこえにくいお子さんのために―聴覚障害サポートハンドブック軽度・中等度難聴編」
（軽度・中等度難聴：診断された時に保護者に対して必要な情報が書かれています）
3. 「どうすればことばが育つか 9歳の壁を越えるために」
（2～3歳頃に必要な情報が書かれています）
4. 「難聴児はどんなことで困るのか ―豊かな心とことばを育むために―」
（療育を開始した頃に知りたい情報が書かれています）

●補聴器、人工内耳

- ・日本耳鼻咽喉科学会 子どものみみ・はな・のどの病気 Q&A

https://www.jibika.or.jp/modules/disease_kids/index.php?content_id=13（補聴器）
補聴器装用が必要な高度難聴であることがわかった場合、なるべく早期に補聴器装用を開始する必要があります。

- ・日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 人工内耳について

https://www.jibika.or.jp/modules/disease_kids/index.php?content_id=14
（人工内耳は、補聴器の装用効果が認めにくい場合などに選択されます）

